

寄贈品コーナー

平塚空襲展 —はじめての本土空襲—

2014年7月16日（水）～8月17日（日）

平塚空襲の体験者の証言で、「はじめての空襲は、高麗寺の祭礼の日だった」と語られることがあります。これは昭和17年（1942）4月18日のドーリットル空襲と呼ばれる、米軍のB25爆撃機による初めての日本本土空襲の証言です。

この日はちょうど大磯の高麗寺の祭礼日であったことから記憶されている方が多く、上空に光る飛行機が印象的であったようです。平塚への攻撃はありませんでしたが、迎撃の高射砲弾が民家に落下したという証言があります。

しかし、この空襲は東京や横浜に大きな被害を与え、撃墜の誤報が出たこともあって、以後、軍部の報道統制が厳しくなっていました。

本展示では、昭和20年（1945）7月16日の平塚空襲について展示・紹介するとともに、このドーリットル空襲についても展示・紹介いたします。



空母ホーネット艦上にならぶB25爆撃機

1942年4月18日（米国立公文書館蔵 近藤洋三氏提供）